

公益社団法人 企業メセナ協議会

東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド



企業メセナ協議会

108-0014 東京都港区芝5-3-2

アイセ芝ビル 8階

phone 03-5439-4520 facsimile 03-5439-4521

www.mecenat.or.jp

2012- No. 07 2012年11月21日

## 東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド「GBFund」 第7回助成活動を決定

公益社団法人企業メセナ協議会(理事長:福地茂雄 [アサヒグループホールディングス株式会社相談役]、東京都港区芝5-3-2)は、このたび「東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド:GBFund」の第7回助成選考委員会を行い、新たに28件を採択しました(一覧は次頁に掲載)。このうち、祭りや郷土芸能を支援する「百祭復興プロジェクト」(以下、百祭復興)枠での採択は14件。津波で流失した祭具や装束を揃え直し、地域に根差した伝統芸能を復活させることでコミュニティーの復興をめざす活動に、引き続き助成してまいります。

今回の助成総額は1,171万8,050円で、2011年3月23日のGBFund開設以来の助成件数は153件、助成総額は7,728万7,867円となりました。これらの助成活動を支える寄付の総額は、11月20日現在、8,214万5,545円となっています。

### 震災より1年半 ——被災した外国人コミュニティーへの支援など、活動内容が深化

今回の採択活動を概観すると、震災から1年半が経過し、現状に即した活動内容の深まりが見られました。たとえば、選考で注目された「震災時における在日外国人」をテーマにした活動では、インタビューによるドキュメンタリーを制作し、コミュニティーを構成する多様な人々が孤立しないよう、地域社会で理解しあうための取り組みを行っています。震災から一定の時間を経て、多様なコミュニティーに属する被災者に目を向けた文化による復興支援活動は、今後も増えていくと予想されます。

### 記録・記憶に残すこと(アーカイブ)を重視した活動の増加

今回の申請案件において、東日本大震災を記憶・記録に残すための「アーカイブ」に関する取り組みが多数あったことも特徴のひとつです。方言集の再発行や記録映像の制作・上映、写真展示など、さまざまな媒体を活用して、震災の風化を防ごうとする動きが増えています。特に映像は、被災地の現状を映し、被災者の考えや思いを伝えようとするものが多く、震災2年目を迎えるに当たって、被災地外で暮らす人々への問いかけにもなっています。

震災から1年半が経ち、文化による復興支援にも中長期のビジョンが求められています。GBFundでは、3年後、5年後につながる、文化による復興支援の新たな「仕組みづくり」の提案に期待し、今後も助成、寄付促進に努めてまいります。なお、GBFundのこれまでの活動成果の報告と、「文化による震災復興のこれまでと、これから」を話し合うフォーラムを、2012年12月10日(月)15時~17時半 電通ホール(東京都港区)にて開催します。GBFundの経験を共有し、文化による復興支援を盛りたてる機会といたしますので、ご取材のほどお願いいたします。

以上

### ■GBFund(東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド)

GBFund(ジービーファンド、G:芸術、B:文化、F:復興/ファンド)は、2011年3月23日に企業メセナ協議会が立ち上げた芸術・文化による復興支援ファンド。趣旨に賛同くださった寄付者とともに、設立より5年間、被災者・被災地を応援する目的で行われる芸術・文化活動や、被災地の有形無形の文化資源を再生する活動を支援する。次回選考は2013年5月を予定。

### ■百祭復興プロジェクト

百祭復興(ひやくさいふっこう)プロジェクトは、GBFundのなかで郷土芸能や祭りを重点支援する目的で2012年3月に設置された助成枠。

#### 【本件に関するお問合せ先】

公益社団法人企業メセナ協議会 広報担当: 松村 GBFund 担当: 寺岡  
〒108-0014 港区芝5-3-2 アイセ芝ビル 8階 TEL:03-5439-4520 FAX:03-5439-4521  
URL: http://www.mecenat.or.jp E-mail: mecenat@mecenat.or.jp

※活動名五十音順、百祭復興プロジェクト採択活動：14件



第7回助成活動一覧（※活動内容の詳細については別添書類を参照）	
活動名	実施者・団体（所在地）
I-Play Fes～演劇からの復興～いわき演劇まつり	I-Play Fes～演劇からの復興～いわき演劇まつり実行委員会（福島県）
祈りの道 気仙三十三観音霊場復興プロジェクト	社会慈業委員会 ひとさじの会（東京都）
岩手県立博物館平成24年度テーマ展「いわての昭和モノ語り」	公益財団法人岩手県文化振興事業団（岩手県）
うごく七夕・川原祭組復興プロジェクトⅡ	川原祭組（岩手県）
大杉神社復興プロジェクト	大杉神社神輿会（岩手県）
大槌稲荷神社例大祭 小槌神社例大祭	城山虎舞（岩手県）
大槌町記録映画「面影地図—大槌の記録—(仮)」の制作活動	映画制作団体 Revolving-Lantern（東京都）
雄勝法印神楽の地元神社祭典での奉納	雄勝法印神楽復興支援金（宮城県）
女川常夜灯「迎え火プロジェクト」女川国物語	一般社団法人対話工房（宮城県）
片岸虎舞復活!!見でける～おらほの虎舞!!	片岸虎舞保存会（岩手県）
釜石まつりおよび各種イベント	只越虎舞（岩手県）
神ノ沢鹿踊り復活計画	神ノ沢鹿踊り保存会（岩手県）
雁舞道七福神会	雁舞道七福神会（岩手県）
きくこと、対話のための、なみ三部作制作および上映会+トーク活動	サイレントヴォイス 有限責任事業組合（東京都）
北上町女川法印神楽保存会次世代伝承活動	北上町女川法印神楽保存会（宮城県）
『北上町の方言集』復刻～失ったものを数えるのではなく～	一般財団法人共生地域創造財団（宮城県）
芸術写真として撮る被災地	檜佐文野（米国・ニューヨーク）
気仙地方古民家再生プロジェクト	NPO 法人 N・C・S（東京都）
気仙沼の食文化・空間の保存を手掛かりとしたコミュニティ支援活動	青山学院大学総合文化政策学部黒石研究室（東京都）
KOBEからのエール～ともがなぼうろ！スティールパンコンサート in 東北	アスタ新長田スティールパン振興会 FANTASTICS（兵庫県）
「311 東北～若葉町～アジア」展	ART LAB OVA（神奈川県）
swimmy	太田和美（宮城県）
～大切なもの～コンサート	Seeds+（福島県）
ドキュメンタリー映画「身分<シュンブン>(仮)」製作上映	東京藝術大学大学院映像研究科（神奈川県）
泊権現舞装束・道具整備事業	泊部落会（岩手県）
復興なみえ町十日市祭伝統文化継承事業	浪江町商工会（福島県）
復興！陸前高田うごく七夕祭り	大石七夕祭組有志会（秋田県）
水浜地区「作楽神社」祭典および春祈祷	水浜区有会（宮城県）

公益社団法人企業メセナ協議会 第7回 GBFund 選考委員会 概要

- 開催日 :2012年11月13日(火)
- 選考委員 :片山正夫(セゾン文化財団常務理事)、俵木悟(成城大学文芸学部文化史学科准教授)、船曳建夫(文化人類学者)、吉本光宏(ニッセイ基礎研究所主席研究員・芸術文化プロジェクト室長)、加藤種男(企業メセナ協議会専務理事)
- 採択件数 :28件、助成総額:1,171万円

■公益社団法人企業メセナ協議会

企業によるメセナ(芸術文化支援)活動の活性化を目的に1990年2月に発足した公益法人。企業メセナへの意欲を高め、メセナや芸術文化に対する社会の理解を深めるため、1.促進・普及、2.情報集配・仲介、3.調査・研究、4.協力・連携、5.顕彰、6.助成等を行う。日本で唯一のメセナ専門の中間支援組織。会長:福原義春([株]資生堂名誉会長)、理事長:福地茂雄(アサヒグループホールディングス[株]相談役)。正会員134社・団体、準会員37団体(2012年7月現在)。

## 第7回 GBFund(東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド)助成活動一覧

活動名／実施者・団体名(所在地) 実施時期／実施場所(都道府県)	活動内容
I-Play Fes～演劇からの復興～いわき演劇まつり I-Play Fes～演劇からの復興～いわき演劇まつり 実行委員会(福島県) 2013年2月1日～3日 いわき芸術文化交流館アリオス小劇場(福島県)	震災以降、衰退しつつあるいわきの演劇活動に歯止めをかけるべく、地域の文化交流館や高校演劇連盟と協力して演劇祭を企画。地域の劇団を対象とした短編演劇コンペティションを開催し、これまで活動の機会を失っていたいわきの演劇団体に上演の場を設ける。また東京の劇団も3団体招聘することで交流のきっかけをつくる。今回のイベントを起爆剤として、いわきの演劇関係団体や関係者の活動活性化につなげたい。
祈りの道 気仙三十三観音霊場再興プロジェクト 社会慈業委員会ひとさじの会(東京都) 2012年～2017年 陸前高田市、大船渡市、住田町を含む気仙地域の観音霊場と各観音霊場を結ぶ道筋(岩手県)	岩手県・気仙地域では、もともと気仙三十三観音霊場の巡礼が行われており、地元の人に親しまれてきた。家族の安寧を祈る場であり、地域の人々の交流の場でもあった。この度の津波によって堂宇・伽藍に壊滅的な被害を受けたところなど、被害状況はさまざまである。被災地域に住む方々のよるべとなる「祈りの道」を再興し、全国の人々にお参りいただき、地域の活性化に寄与できればと考えている。
岩手県立博物館平成24年度テーマ展 「いわての昭和モノ語り」 公益財団法人岩手県文化振興事業団(岩手県) 2013年3月30日～5月26日 岩手県立博物館特別展示室(岩手県)	震災により岩手県沿岸部の博物館や関係施設は被災したが、幸いにも戦後復興に密にかかわる資料の多くがその後無事に救出された。本展示会はそれらを用いながら昭和時代における岩手県の歩みを平成の大震災後の現在と重ねつつ紹介する。戦後混乱期、昭和の天災時と今回の震災後を照らし合わせることで、昔も今も郷土芸能などの地域の芸術文化活動が人々の生きる力、コミュニティ再生に必要な力となっていることがみてとれる。
うごく七夕・川原祭組復興プロジェクトⅡ 川原祭組(岩手県) 2013年6月～8月7日 旧川原会館跡地、陸前高田市高田地区内(岩手県)	陸前高田市では毎年8月7日に「うごく七夕祭り」が開催され、住民総出で準備する華麗な七夕飾りをつけた13台の山車が市内で運行してきた。しかし震災の大津波により中心街のすべてが流失し、山車も深刻な被害を受けた。2年ぶりに山車を修復して祭りに参加した今年に続き、2013年も七夕飾り製作で離れ離れとなった地域民の力を結集させ、地域の復興再生へとつなげたい。
大杉神社復興プロジェクト 大杉神社神輿会(岩手県) 2013年9月15日～16日 大杉神社境内および山田町内(岩手県)	大津波で壊滅的な被害を受けた山田町の大杉神社は海の守り神をまつっており、毎年9月に神輿を担いで海に入り湾内と町内を練り歩く例大祭が盛大に開催されてきた。担ぎ手のベテランでつくる「神輿会」は被災した神輿修復のために募金活動を行っており、本来の祭りの姿を取り戻そうと日々活動している。来年は衣装を揃えて祭りを盛り上げ、町の復興へのさらなる活性化を目指す。
大槌稲荷神社例大祭 小槌神社例大祭 城山虎舞(岩手県) 2013年9月20日～22日 大槌稲荷神社境内、小槌神社境内、大槌町内一円(岩手県)	町全体が津波と火災で甚大な被害を受けたにもかかわらず奇跡的に残った大槌稲荷神社と小槌神社。復興祭を経て今年は規模縮小ながら町内神輿渡御が復活。昨年のGBFund助成では虎頭や提灯、発電機などをそろえることができたが、衣装がそろわず参加を見送る子どもたちもいた。今年はより多くの衣装と虎頭を揃え次世代へ伝統芸能を継承し、失いかけた地域の絆を取り戻す。






活動名／実施者・団体名(所在地) 実施時期／実施場所(都道府県)	活動内容
大槌町記録映画「面影地図—大槌の記録— (仮)」の制作活動 映画制作団体 Revolving-Lantern(東京都) 2012年6月1日～2013年3月30日 都内、大槌町・盛岡市(岩手県)	大槌町で生まれ育ったが、故郷のことを何も知らないことを自覚した大久保愉伊氏は本作の制作を決意。先人たちの歩みと、現在大槌町の風土をいかして復興に向け活動する町民とを照らし合わせれば、新しい町づくりにいかせる、未来を考えるきっかけになるのではと考えた。本映画は大槌町を今生きる人々のみならず、次の世代にも見せ、大槌の文化や精神、震災を継承していく。
雄勝法印神楽の地元神社祭典での奉納 雄勝法印神楽復興支援金(宮城県) 2013年4月～5月 雄勝町船越字船越地区、荒地区、大須地区、熊沢地区、桑浜地区、立浜地区、波板地区(宮城県)	雄勝町内で毎年8カ所前後奉納されていた神楽の祭典が震災により昨年は一度も開催されなかった。少しずつ道具類は復元しているが、津波被害により人口の流失があり、祭典維持が難しい状況にある。神楽師による神楽舞台の鑑賞は、自宅を失い転居した人々が集い、コミュニケーションをとれる大切な機会である。祭典を再開することで住民同士の故郷への気持ちをつなぎとめ、絆を再確認する。
女川常夜灯「迎え火プロジェクト」女川国物語 一般社団法人対話工房(宮城県) 2013年8月13日及び前後のワークショップ 女川町全域(宮城県)	昨年開催した本プロジェクトは今年、住民らの希望により女川町をあげての「迎え火」の開催が検討されている。対話工房は助言をする立場となり、住民自らが望む「100年以上続く伝統行事」にしていくための主体的な創造力を育む機会をサポートしていくことに力点を置く。女川の人々が未来に向かい歩んでいくための一助とする。
片岸虎舞復活!!見でけろ～おらほの虎舞!! 片岸虎舞保存会(岩手県) 2013年10月 釜石市片岸町 片岸稲荷神社(岩手県)	江戸時代から続き、虎舞が盛んな釜石の中でも最古とされる片岸虎舞。昨年の GBFund 助成で最低限の道具を揃え、復活祭では地元に住人と呼んで披露することができた。しかし山車が用意できていないため、練り歩いて仮設住宅まで行くことができなかった。担ぎ手もそろわないなか、2013年は山車に代わる移動式屋台を準備して、仮設に住む人々に片岸虎舞の太鼓と笛の音を届け、疲れを癒し勇気づけたい。
釜石まつりおよび各種イベント 只越虎舞(岩手県) 2013年6月、10月 釜石市内(岩手県)	毎年10月に行われる「釜石まつり」は海の神をまつる尾崎神社と山神社の合同奉納祭。尾崎神社から船でご神体を奉還する「曳き船まつり」があり、虎舞や神楽を乗せた船が大漁旗をなびかせて釜石港内を練り歩き、浜や海上の安全を祈願する。震災によって多くの道具を流失したが、被災した人々を励まそうと少しずつ道具を整備しながら、地域の復興再生の一助となるよう取り組む。
神ノ沢鹿踊り復活計画 神ノ沢鹿踊保存会(岩手県) 2013年旧4月15日、旧8月17日 釜石市鶴住居町の神社、祭り場、残った住宅と仮設住宅を回って踊る(岩手県)	鶴住居町に伝わる神ノ沢鹿踊りでは師匠を失い、さまざまな装束が流されてしまった。鶴住神社の祭りを復活させるには、神輿のお供に欠かせない丁印の役を持っている神ノ沢鹿踊りの復活が不可欠。太鼓の音を聞きつけて会員が集まってくれることを期待して、師匠の庭先を借りて練習を始めた。まずは旧暦4月15日の祭りで春祈禱を行い、地区住民を力づけたい。

活動名／実施者・団体名(所在地) 実施時期／実施場所(都道府県)	活動内容
<p>雁舞道七福神会</p> <p>雁舞道七福神会(岩手県)</p> <p>毎年9月、その他</p> <p>大槌町(岩手県)</p>	<p>大槌町で唯一の七福神会は、子どもをメインに活動している。震災以前は結婚式やイベントに呼ばれることが多くあり、震災後も同様の依頼はあるが、子どもたちがバラバラになってしまったため、当初は断っていた。しかし周りの声に押され、今回の申請を機に装束等をそろえて七福舞を披露し、伝承や継続につなげていきたい。</p>
<p>きくこと、対話のための、なみ三部作制作 および上映会+トーク活動</p> <p>サイレントヴォイス 有限責任事業組合(東京都)</p> <p>2013年4月～</p> <p>撮影:岩手県、宮城県、福島県、上映:日本全国</p>	<p>震災を、遠い地の手の届かぬ誰かのことではなく、すべての人が「当事者」として捉えるために、東北の人々の今に耳を傾け、未来に来るかもしれない自らの地の震災について対話することが不可欠である。本企画では被災地で震災を体験した親しい人同士の対話を撮り続けた記録映像「なみのおと」と「なみのこえ」に加え、東北の精神性を表す民話の語り部を記録した「うたうひと」を制作。日本全国で上映し、監督と観客、観客同士の対話の場を設ける。現地での支援だけでなく、日常の中で備え、命をつなぐことの大切さを伝えていく。</p>
<p>北上町女川法印神楽保存会次世代伝承活動</p> <p>北上町女川法印神楽保存会(宮城県)</p> <p>2013年1月末</p> <p>石巻市河北総合センター(宮城県)</p>	<p>気仙郡地方が発祥の法印神楽は南下しながら各地に伝えられてきた。地元の中学校にて神楽の伝承事業の実施や各種イベントでの披露していたが、今回の震災で甚大な被害を受け、奉納場所も回数も激減した。昨年は2カ所で奉納し、地域の方に大変喜ばれた。次世代にこの神楽を伝承し、地域住民の励みになる神楽を奉納し続けたい。</p>
<p>『北上町の方言集』復刻 ～失ったものを数えるのではなく～</p> <p>一般財団法人共生地域創造財団(宮城県)</p> <p>2012年10月～2013年1月</p> <p>石巻市北上町十三浜(相川浜)(宮城県)</p>	<p>地元の郷土史家の佐藤清吾氏が地域民を取材し、2年の歳月を費やして制作した『北上町の方言集』。地域の学校・社会教育委員会に寄贈されたが、津波により流失、一冊だけが奇跡的に見つかった。これを復刻・再発行する。方言集は平安時代に遡る十三浜固有の歴史文化を想起させ、ひとつの読み物になっている。地域文化を未来に引き継ぎ、人々の結びつきをより深め、心をつなぐために十三浜固有の“ことば”を伝えていく。</p>
<p>芸術写真として撮る被災地</p> <p>檜佐文野(米国・ニューヨーク)</p> <p>2012年～2013年</p> <p>岩手県、宮城県、福島県</p>	<p>震災以降多くの写真家が被災地を訪れ、ドキュメンタリーや記録としての写真を撮り続けてきたが、残念ながらそれらの多くは時間が経つと人々の心から忘れ去られてしまう感がある。写真家檜佐文野は被災地の現状や復興の様子を芸術写真として撮影することで人々の関心を引きつけ続け、大震災の記憶を伝えていく。芸術の観点から撮影した写真がドキュメンタリーにはない部分を補い、国内外の多くの人々の記憶に長く残るよう活動する。</p>
<p>気仙地方古民家再生プロジェクト</p> <p>NPO法人N・C・S(東京都)</p> <p>2012年11月14日～2013年9月</p> <p>大船渡市・陸前高田市(岩手県)</p>	<p>気仙地方は漁業だけでなく林業も盛んな地域で、気仙杉と呼ばれる地域素材と、大工集団である「気仙大工」に特徴がある。そこで古民家再生に向けたプロジェクトを立ち上げた。本活動ではその延長として文化財指定を目指す歴史的建造物の調査を行う。気仙地方の歴史・文化の継承になるとともに、最終的に被災者の心のケアにつながるものと考えている。</p>



活動名／実施者・団体名(所在地) 実施時期／実施場所(都道府県)	活動内容
気仙沼の食文化・空間の保存を手掛かりとしたコミュニティ支援活動 青山学院大学総合文化政策学部黒石研究室(東京都) 2012年4月～2013年3月 気仙沼市立浦島小学校と仮設住宅、気仙沼市小々汐(宮城県)	東北地方には風土や産業に適応しながら生まれた「暮らしの知恵」として蓄積されてきた独自の日常生活文化がある。しかしそれは震災と急速な復興再開事業により失われようとしている。本企画では気仙沼の食文化に注目し、郷土食や生活様式などについて調査し、地域の人々と食事会を開催しながら伝統的食空間を再現する。その過程を記録しリアスアーク美術館にて保存・公開することで、故郷の記憶を未来につなぐ生活文化資源の重要性を再確認する。
KOBE からのエール～ともにがんばろう！スティールパンコンサートin東北 アスタ新長田スティールパン振興会 FANTASTICS(兵庫県) 2013年3月22日から25日 南三陸町・愛島の東部仮設住宅(宮城県) 飯館村の仮設住宅(福島県)	当団体は2001年、阪神・淡路大震災での被災地新長田で生まれた。植民地であった厳しい状況のなか、トリニダード・トバゴ共和国で生まれたスティールパンを復興の象徴とし、この楽器の普及活動を行ってきた。今回、同じような被災経験を持つ神戸からのエールとして東北を訪問し、コンサートと体験交流会を実施する。少しでも元気になってほしい、いつかは私たちのように復興できるという希望を持っていただきたいとの気持ちで活動する。
「311 東北～若葉町～アジア」展 ART LAB OVA(神奈川県) 2012年11月15日～12月30日 韓国料理店「仁川」、中華料理店「皇膳門」、タイ料理店「ナムチャイ」、横浜パラダイス会館(神奈川県)	東北において、その存在が点在し、被災体験や現状が共有されにくい外国出身者に焦点を当てたプロジェクト。アーティストが母語で彼らを調査し、横浜の多文化地域の外国出身者の経営する料理店で展示することにより、広い東北で孤立しがちな外国出身の被災者とその体験、必要な支援を日本国内やアジアの同国人に知ってもらう。今後長期的に継続できる支援やネットワークにつなげていく。
swimmy 太田和美(宮城県) 2012年3月～2013年4月 宮城県沿岸部の仮設住宅集会所、他(宮城県)	震災後の津波被害地域では漂着ゴミにたくさんのガラスの破片が混じっており、子どもたちの遊び場が危険にさらされている。裸足でも遊べる安全な遊び場の回復を目指して、地元の子どもたちとクリーン活動を行いながらこれらを拾い集め、作品をつくるワークショップを開催する。作品づくりを通して子どもたちがあらためて震災と向き合える機会をつくり、普段しまいこんでいる津波に対する思いを吐き出すことで心のケアにつなげたい。
～大切なもの～コンサート Seeds+(福島県) 2013年3月 南相馬市スポーツセンター(福島県)	大震災後、原発事故により被災し離散した南相馬市の子どもたちを中心に結成したマーチングバンドH-Seedsの活動を更に発展させるため、Seeds+を結成。震災直後からさまざまな方々とのコンサートを行い、子どもたちが前向きにがんばる姿やレベルの高い演奏を披露することで、地域に元気を、そして復興への勇気をもたらすことができると期待している。
ドキュメンタリー映画「身分<シュンフン>」(仮)製作上映 東京藝術大学大学院映像研究科(神奈川県) 2012年12月～2013年3月 せんだいメディアテーク(宮城県) 他	震災後、地域社会の外国人のなかで新しいコミュニティが生まれた。石巻市、南三陸で成長している3つの外国人団体を主軸として、過去、現在、未来をめぐる、故郷であれ異郷であれ、その「帰属感」が人間と土地の関係を構築する上でどのような役割を果たすのか、その現状を聞き、記録し、広く後世まで伝えるドキュメンタリー映画を作る。

活動名／実施者・団体名(所在地) 実施時期／実施場所(都道府県)	活動内容
<p> 泊権現舞装束・道具整備事業</p> <p>泊部落会(岩手県)</p> <p>2012年11月～2013年4月</p> <p>泊仮設公民館(岩手県)</p>	<p>大震災により泊権現舞の装束・道具のすべてを流失したため、稽古や毎年恒例であった正月の悪魔祓いなどが中断したままで、継承が困難となっている。復活を目指して地域住民で取り組むことによって、復旧・復興に立ち上がる元気と勇気を生み出す。同時に、保存、伝承活動を通じて世代間交流・地域住民との絆を強め、新しい地域づくりに対する意識の高揚をはかる。</p>
<p> 復興なみえ町十日市祭伝統文化継承事業</p> <p>浪江町商工会(福島県)</p> <p>2012年11月23日、24日</p> <p>二本松市民交流センター(福島県)</p>	<p>浪江町民は全国に避難し帰町の見通しも示されない中で1年7カ月が過ぎた。2012年避難先の二本松市の協力を得て、浪江町に130年余り続いてきた十日市祭を開催したところ、全国各地に避難されていた町民がかけつけ絆を強めることができた。本年も同祭を開催し、町内各地に伝えられてきた伝統芸能を一堂に会し披露することで故郷への想いをつなぎとめ、帰還するまでのモチベーションを維持したい。</p>
<p> 復興！陸前高田うごく七夕祭り</p> <p>大石七夕祭組有志会(秋田県)</p> <p>2013年8月6日、7日</p> <p>陸前高田市高田町(岩手県)</p>	<p>陸前高田市に何百年と伝わる伝統行事「うごく七夕」は昨年、有志が集まり、震災の被害をまぬがれ残された山車で開催することができた。地域住民が大好きな七夕祭りは、大人になると会うことが難しくなる皆をつなぎ、心を癒し、前へ進み続けることができる。津波で流されてしまい、その後復活させたそろいの半纏を着て、伝統を引き継ぎ、高田の文化を守りたい。</p>
<p> 水浜地区「作楽神社」祭典および春祈祷</p> <p>水浜区有会(宮城県)</p> <p>2013年1月3日、10月17日</p> <p>水浜地区「作楽神社」および水浜地区(宮城県)</p>	<p>往古より村の鎮守である「作楽神社」は地区民コミュニティーの拠りどころであり、正月の春祈祷・秋の祭典には老若男女が協力しながら行事を支えてきた。震災ではかろうじて本殿の被害はなかったが、周辺の民家は津波でほとんどが流失し、神輿の担ぎ手も地区に残っていない。今年は祈祷のみが行われたが、来年こそはっぴやのぼり旗をそろえて活気ある祭りを復活させたい。</p>